

研究業績2025年

- ① 発表者, 共同発表者
- ② 演題名
- ③ 発表形式【口演・ポスター・シンポジウム・教育講演・特別講演・他】
- ④ 学会名
- ⑤ 開催場所
- ⑥ 開催年月日【西暦半角】
- ⑦ 要旨・Summary(日本語なら100文字、英語なら50 wordsを目安に)

英文例)

- ① Takarazuka S, Takarazuka I, Takarazuka J, Takarazuka S, Takarazuka G【Century】
- ② Cardiogenic oscillation in pediatric patients after cardiac surgery.【Century】
- ③ Poster
- ④ Society of Critical Care Medicine 2017 Congress【Century】
- ⑤ Honolulu【Century】
- ⑥ 2017/1/22【Century】
- ⑦ In pediatric patients after cardiac surgery, cardiogenic oscillation was often large causing autotriggering of mechanical ventilation.

和文例)

- ① 宝塚すみれ、宝塚一郎、宝塚二郎、宝塚三郎、宝塚五郎
- ② 急性間質性肺炎に対して血液浄化療法は考慮されるべきか？
- ③ プロコン
- ④ 第27回日本急性血液浄化学会学術集会
- ⑤ 東京
- ⑥ 2016/10/28
- ⑦ 急性間質性肺炎に対する血液浄化療法は、臨床データが不足しており実施は推奨できない

1	① 饒平名長武、吉岡睦展、石津智司、小澤 拓、高子優子
	② COVID-19感染症の保険制度変更に伴う使用薬剤の動向
	③ ポスター
	④ 第46回日本病院薬剤師会近畿学術大会
	⑤ 神戸(神戸国際展示場1・2号館)
	⑥ 2025/1/25-26
	⑦ 薬剤部の医療費を含めた抗ウイルス剤研修会により公費群に比べ保険群で軽症例は195万円減少。保険群は入院時重症例が多かった

2 ① 土田裕貴、吉岡睦展、石津智司、小澤 拓、饒平名長武、若松雄太、有延早弥香、下村美穂、山本哲久、鈴木 透

② 薬剤情報共有を重視した取り組みーSGLT2阻害薬により発症したフルニエ壊疽の2症例ー

③ 口頭

④ 第46回日本病院薬剤師会近畿学術大会

⑤ 神戸(神戸国際展示場1・2号館)

⑥ 2025/1/25-26

⑦ フルニエ壊疽の2症例に対し治療後、被疑薬SGLT2阻害薬の中止の提案、退院後の注意喚起として薬剤情報提供書で連携し再燃防止

3 ① 植田貴史、中嶋一彦、吉田耕一郎、久斗章広、浮村 聡、小川 拓、長尾美紀、土戸康弘、川村英樹、茂見茜里、保富宗城、河野正充、笠原 敬、今北菜津子、掛屋 弘、金子幸弘、仁木 誠、山田康一、覺野重毅、宮崎泰可、住吉 誠、吉岡睦展、竹末芳生

② Pitt candidemia score to predict mortality for candidemia

③ シンポジウム

④ 第11回日本医真菌学会関西支部「深在性真菌症研究会」

⑤ 和歌山県立医科大学

⑥ 2025/3/8

⑦ 多施設研究で*C.tropicalis* およびその他の主な*Candida*属菌種において、死亡率の層別リスク評価に対するPCSの有効性が示された

4 ① 永田和美、山本哲久、今戸健人、田中紀光、森 亜子、清水義文、正置耕一、吉岡睦展

② 多発性骨髄腫におけるレナリドミド起因性皮疹の指標としてのTh2ケモカイン(TARC)の検討

③ ポスター

④ 第124回日本皮膚科学会総会

⑤ 横浜(パシフィコ横浜)

⑥ 2025/5/29-6/1

⑦ LEN起因性皮疹は一般の炎症指標に反映せずTARC値のみが皮疹の症状に応じて昇降。TARCはLEN起因性皮疹の指標となり得る

5 ① 麻薬専用トレーシングレポートの作成と運用

② 高子優子、田村知子、村上紘世、細見真世、波多野友美、澁谷奈穂、近藤万友美、正置耕一、吉岡睦展

③ 口頭

④ 第18回日本緩和医療薬学会学術大会

⑤ 千葉(幕張メッセ国際会議場)

⑥ 2025/6/20-22

⑦ A4一枚で介入事項が網羅できる麻薬専用TRを作成し、1年間の運用を評価。TFでの介入でCP・疼痛パターン・体動時疼痛を評価が多かった

- 6 ① 高用量持続皮下注のオピオイドスイッチおよびメサドン併用により自宅退院が可能となった一症例
② 細見真世、高子優子、澁谷奈穂、近藤万友美、正置耕一、加藤 豪、奥本龍夫、吉岡睦展
③ ポスター
④ 第18回日本緩和医療薬学会学術大会
⑤ 千葉(幕張メッセ国際会議場)
⑥ 2025/6/20-22
⑦ 往診医からのモルヒネCSCI希望でオピオイドスイッチを実施し、神経障害性疼痛コントロール目的でメサドン変則併用で退院可能となった
- 7 ① 根上朋子、吉岡睦展、細見真世、杉生雅和、高子優子、宮島 透
② 心不全患者における退院後トレーシングレポートの導入と再入院の関連
③ ポスター
④ 第9回日本老年薬学会学術大会
⑤ 千葉(幕張メッセ国際会議場)
⑥ 2025/6/27-29
⑦ 心不全患者116名の退院後1年以内の生存は60名、再入院は11名で再入院後TR導入した1名を含めTR実施患者の再入院はなかった
- 8 ① 若松雄太、吉岡睦展、杉生雅和、五明祐介、今村武史、越智史浩、難波光義
② 高齢の1型糖尿病患者に対して骨粗鬆症の治療介入を行った一例
③ ポスター
④ 第9回日本老年薬学会学術大会
⑤ 千葉(幕張メッセ国際会議場)
⑥ 2025/6/27-29
⑦ 1型糖尿病患者における骨粗鬆症スクリーニングで骨代謝マーカー、25OHビタミンD等の検査提案、活性ビタミンDの処方提案後フォロー
- 9 ① 杉生雅和、吉岡睦展、若松雄太、石津智司、福井浩二、鈴木 透、藤原勇輝、糸原 仁、森山徳秀
② 尿路結石の再発防止と骨粗鬆症の同時治療アルゴリズムの作成
③ 口頭
④ 第9回日本老年薬学会学術大会
⑤ 千葉(幕張メッセ国際会議場)
⑥ 2025/6/27-29
⑦ 尿路結石の再発防止と骨粗鬆症の同時治療アルゴリズムを作成し2例治療。当院ウロからかかりつけ整形へ情報提供し治療継続している

- 10 ① 高子優子、細見真世、正置耕一、柳井亜矢子、加藤 豪、奥本龍夫、吉岡睦展
 ② 疼痛評価の反復によってオピオイドを中止できた病勢コントロール良好な乳癌骨転移の一症例
 ③ ポスター
 ④ 第30回日本緩和医療学会学術大会
 ⑤ 福岡(福岡国際会議場・マリンメッセ福岡)
 ⑥ 2025/7/4-5
 ⑦ 病勢コントロール良好な乳癌骨転移患者のオピオイド長期使用例を慢性疼痛と捉え、疼痛評価を繰り返し実施して減量から中止できた
- 11 ① 若松雄太、吉岡睦展、杉生雅和、五明祐介、今村武史、越智史浩、難波光義
 ② 1型および2型糖尿病患者に対して骨粗鬆症の治療介入を行った3例
 ③ 口頭
 ④ 第27回日本骨粗鬆症学会学術大会
 ⑤ 千葉(幕張メッセ国際会議場)
 ⑥ 2025/9/12-14
 ⑦ 1・2型糖尿病患者の骨粗鬆症スクリーニングで骨代謝マーカー、25OHビタミンD等の検査提案、活性ビタミンDの処方提案後フォロー
- 12 ① 森田聡子、長尾彰太、中川史絵、小澤 拓、吉野 徹、村上紘世、池岡諒一、肥田佑実、小溝優子、土田裕貴、近藤万友美、新 康憲、西山祐美、正置耕一、吉岡睦展
 ② 電子処方箋の導入に向けた課題－マスタ設定と運用－
 ③ ポスター
 ④ 第35回日本医療薬学会年会
 ⑤ 神戸(神戸国際展示場)
 ⑥ 2025/11/22-24
 ⑦ 電子処方箋の本稼働に向け院内でのマスタ設定や周知のみならず、複数の保険薬局での連携確認・調整、市薬剤師会等への事前周知が重要
- 13 ① 小林由美子、波多野友美、高子優子、正置耕一、森亜子、清水義文、吉岡睦展
 ② 医薬品添加物が血小板低下の一因と考えられた特発性血小板減少性紫斑病の一症例
 ③ ポスター
 ④ 第35回日本医療薬学会年会
 ⑤ 神戸(神戸国際展示場)
 ⑥ 2025/11/22-24
 ⑦ ITP患者のPLT低下について、医薬品本体のみならず添加物(マクロゴール6000)が原因と考えられる症例を経験し、これら回避で改善

- | | |
|----|---|
| 14 | ① 小澤 拓、吉岡睦展、石津智司、饒平名長武、森山徳秀 |
| | ② 化膿性脊椎炎の抗菌薬治療における短期静注後の経口切り替えは可能か― 65例の後ろ向き解析 ― |
| | ③ 口頭 |
| | ④ 第73回日本化学療法学会西日本支部会 |
| | ⑤ 福岡(福岡国際会議場) |
| | ⑥ 2025/11/28-30 |
| | ⑦ 化膿性脊椎炎における14日以内の経口切り替えは、治療成績を損なうことなく、入院期間短縮および医療資源削減に寄与する可能性が示された |
-
- | | |
|----|---|
| 15 | ① 石津智司、吉岡睦展、小澤 拓、饒平名長武、若松雄太、杉生雅和 |
| | ② AST薬剤師によるSOFAスコア評価が診療報酬に与える影響(Ⅱ) |
| | ③ 口頭 |
| | ④ 第73回日本化学療法学会西日本支部会 |
| | ⑤ 福岡(福岡国際会議場) |
| | ⑥ 2025/11/28-30 |
| | ⑦ AST薬剤師業務としてSOFAスコア評価と敗血症診断名追加の提案は、費用対効果の高い介入として、診療報酬増加に寄与する |
-
- | | |
|----|--|
| 16 | ① 五明祐介、越智史浩、松本史織、今村武史、山内真奈、若松雄太、伊藤伸哉、淋美智代、難波光義 |
| | ② 週1回持効型溶解インスリン製剤(インスリンイコデク)の高齢者糖尿病における有効活用 |
| | ③ 口頭 |
| | ④ 第62回日本糖尿病学会近畿地方会/第61回JADEC近畿地方会 |
| | ⑤ 大阪(大阪国際会議場) |
| | ⑥ 2025/11/29 |
| | ⑦ インスリンイコデクの上市により、ADLや認知機能の低下した患者・家族の負担の軽減が期待される |